

⑩ 公開特許公報(A) 平1-242386

⑪ Int. Cl.<sup>4</sup>

B 66 B 9/04  
11/00

識別記号

庁内整理番号

D-6662-3F  
A-6662-3F

⑬ 公開 平成1年(1989)9月27日

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全4頁)

⑭ 発明の名称 流体圧エレベータ

⑮ 特 願 昭63-63371

⑯ 出 願 昭63(1988)3月18日

⑰ 発 明 者 首 藤 克 治 茨城県土浦市神立町502番地 株式会社日立製作所機械研究所内

⑱ 発 明 者 中 村 一 朗 茨城県土浦市神立町502番地 株式会社日立製作所機械研究所内

⑲ 出 願 人 株式会社日立製作所 東京都千代田区神田駿河台4丁目6番地

⑳ 代 理 人 弁理士 小川 勝男 外1名

明 題 書

1. 発明の名称

流体圧エレベータ

2. 特許請求の範囲

1. 流体圧シリンダに吸排する高圧流体の流量を制御して乗かごを昇降させる形式の流体圧エレベータにおいて、前記乗かごを支持する昇降枠部材に設けた流体圧シリンダと、この流体圧シリンダのプランジヤの縮小によつて、乗かごを上昇させるように、前記プランジヤと乗かごとをロープ手段により連結させ、プランジヤ部に釣合い重りを装着し、乗りかごの重量を軽減することを特徴とする流体圧エレベータ。

3. 発明の詳細な説明

〔産業上の利用分野〕

本発明は圧力流体が給排される流体圧シリンダにロープを連結しプーリを介して乗かごを昇降させる形式の流体圧エレベータに係り、特に小規模住宅などの比較的低い建物に好適な流体圧エレベータに関する。

〔従来の技術〕

従来この種の流体圧エレベータは、乗かごが流体圧シリンダのプランジヤに直接連結され、又はプランジヤ、プーリおよびロープを介して間接的に連結され、圧力流体によるプランジヤの押上動作(プランジヤの伸長動作)によつて乗かごを上昇させ、プランジヤの押下動作(プランジヤの縮小)によつて乗かごを下降させるようになっていたため、このエレベータに働く力の軽減及び、エネルギー節約の観点から特開昭59-203074に記載されるように釣合い重りを用いる構造が知られている。

〔発明が解決しようとする課題〕

上記従来技術は、乗かごの上昇は流体圧シリンダのプランジヤの押上動作によつて行われており、プランジヤの屈服強度上、プランジヤ径を大きくする必要があり、圧力流体は比較的低下(10~30 kg/cm<sup>2</sup>)となり、これに伴つて流量制御弁や流体圧ポンプなどの油圧機器も大型化し、コスト高となり、エネルギー効率も低下する。また、乗か

この自重相分をつり合わせるための釣り合い重りを用いて所要動力を軽減する構造も提案されており、この方式では、乗かごの昇降するスペースの他に釣り合い重りが乗かごと逆方向に移動するためのスペースが必要となり昇降路面積が大きくなる。即ちスペースファクタが低下する問題があった。

本発明の目的は油圧機器の小型化およびコスト低減を図り、乗かごを駆動する力を低減し且つ、昇降スペースを有効に利用する流体圧エレベータを提供することにある。

#### 〔問題を解決するための手段〕

上記目的は、乗かごを支持する昇降枠部材に流体圧シリンダを設け、この流体圧シリンダのプランジヤの縮小によつて乗かごを上昇させるようにプランジヤと乗かごをロープ手段により連結させ、シリンダ又はプランジヤに重りか、あるいはそれに代る力を付与することにより達成される。

#### 〔作用〕

乗かごを支持する昇降枠部材にロープを介して設けられた流体圧シリンダは、乗かごの上昇時に

位置を保持する。また、この昇降枠部材2は工場で組立てるが、階床数の多い場合には部分的に組立てを行なつて運搬し、現地でそれらを結合する。この結合は結合部材2bで行なう。

3は乗かご1を昇降枠部材2に吊つて昇降させる駆動ユニットで、駆動ユニット3はプランジヤ11の伸縮動作により乗かご1を昇降させる流体圧シリンダ10と、この流体圧シリンダ10に圧力流体を供給する油圧ポンプ12と、油圧ポンプ12を駆動するモータ13などから形成されている。8は万一乗かご1が異常下降した場合に安全機能を有するパツファ、4及び6は乗かご1の転倒防止を図るローラで、ローラ4は昇降枠部材を形成するフレームの後側に、ローラ6はフレームの前側に配設されている。7はフレームの補強部材。19は乗かご1を駆動ユニット3の駆動力によつて昇降させるロープで、このロープ19は一端が支持板5を介して乗かご1に固定され、他端はプーリ16、17、18を介して昇降枠部材2に固定されている。14及び15は流体圧シリン

ダプランジヤが縮小方向に移動する。それによつてプランジヤは常に引張力を受けるようになるのでプランジヤに摩耗を生じることなく油圧機器の小型軽量化が図れる。また、上記構造により、釣り合いおもりと同様の役目をするおもりを流体圧シリンダ部に装着できるため釣り合いおもりを駆動するための費用、スペースが不要となり、流体圧エレベータの全体的コストが低減できる。

#### 〔実施例〕

以下本発明の一実施例を図面により説明する。

第1図は小規模住宅（図示せず）、例えば2〜3階建の比較的低い建物に本発明の流体圧エレベータを備付けた状態を示す。

1は乗かご、2は乗かご1を昇降自在に支持する昇降枠部材で、この昇降枠部材2は例えばトラス構造からなっており、建物内に形成した昇降路（図示せず）に固定されている。

この昇降枠部材2は自立形で、乗かご1の重量を支えるだけの強度を有する。しかし、一部は建物に固定して強度を補強すると共に建物との相対

位置を保持する。また、この昇降枠部材2は工場で組立てるが、階床数の多い場合には部分的に組立てを行なつて運搬し、現地でそれらを結合する。この結合は結合部材2bで行なう。

3は乗かご1を昇降枠部材2に吊つて昇降させる駆動ユニットで、駆動ユニット3はプランジヤ11の伸縮動作により乗かご1を昇降させる流体圧シリンダ10と、この流体圧シリンダ10に圧力流体を供給する油圧ポンプ12と、油圧ポンプ12を駆動するモータ13などから形成されている。8は万一乗かご1が異常下降した場合に安全機能

を有するパツファ、4及び6は乗かご1の転倒防止を図るローラで、ローラ4は昇降枠部材を形成するフレームの後側に、ローラ6はフレームの前側に配設されている。7はフレームの補強部材。19は乗かご1を駆動ユニット3の駆動力によつて昇降させるロープで、このロープ19は一端が支持板5を介して乗かご1に固定され、他端はプーリ16、17、18を介して昇降枠部材2に固定されている。14及び15は流体圧シリン

ダプランジヤが縮小方向に移動する。それによつてプランジヤは常に引張力を受けるようになるのでプランジヤに摩耗を生じることなく油圧機器の小型軽量化が図れる。また、上記構造により、釣り合いおもりと同様の役目をするおもりを流体圧シリンダ部に装着できるため釣り合いおもりを駆動するための費用、スペースが不要となり、流体圧エレベータの全体的コストが低減できる。

以下本発明の一実施例を図面により説明する。  
第1図は小規模住宅（図示せず）、例えば2〜3階建の比較的低い建物に本発明の流体圧エレベータを備付けた状態を示す。  
1は乗かご、2は乗かご1を昇降自在に支持する昇降枠部材で、この昇降枠部材2は例えばトラス構造からなっており、建物内に形成した昇降路（図示せず）に固定されている。  
この昇降枠部材2は自立形で、乗かご1の重量を支えるだけの強度を有する。しかし、一部は建物に固定して強度を補強すると共に建物との相対位置を保持する。また、この昇降枠部材2は工場で組立てるが、階床数の多い場合には部分的に組立てを行なつて運搬し、現地でそれらを結合する。この結合は結合部材2bで行なう。  
3は乗かご1を昇降枠部材2に吊つて昇降させる駆動ユニットで、駆動ユニット3はプランジヤ11の伸縮動作により乗かご1を昇降させる流体圧シリンダ10と、この流体圧シリンダ10に圧力流体を供給する油圧ポンプ12と、油圧ポンプ12を駆動するモータ13などから形成されている。8は万一乗かご1が異常下降した場合に安全機能

る。そして停止目標位置が近づくとシリンダ10への供給流量を少なくし、乗かご1を減速、停止させる。

また、乗かご1が下降する場合は、モータ13、ポンプ12を前記上昇動作時とは逆方向に駆動してシリンダ10の下部へ流体を供給すると、ブランジャ11は伸長方向へ移動する。

このブランジャ11の動きは、ロープ19、プーリ16、17、18を介しておもり20に釣合された乗かご1に伝えられる。乗かご1は、重り20との差の重量によつて下降する。そして乗かご1が停止目標位置に近づくと、流体圧シリンダ10への流体の流量を減少させ、乗かご1を減速、停止させる。

上述の構成によれば、乗かご1の自重による荷重は流体圧シリンダ10のブランジャ11の伸長方向に力が作用するので、従来のごとくブランジャの縮小方向に力を受けることがないので腐敗の問題は解消される。それ故、ブランジャの小径化が可能で、ブランジャ側におもりをつけることも

できるようになり、シリンダの小型化により高圧の圧力流体の採用が可能で、タンク、ポンプの制御弁などの油圧機器の大幅な小型化が可能となる。また、全体的にスペースをせまくすることができる。さらに、高圧の圧力流体の採用により流体機器での圧力損失が相対的に小さくなり、省エネルギー化が図れる。その上機器の小型化は据付組立時の省力化、機器のコスト低減になる。

第2図は、本発明の他の実施例を示すもので、ブランジャ11の下部にロッド21を接続したおもり20を連結している。重りを従来のブランジャにつけようとする、ブランジャ長さにおもり装着スペースを増やさなければいけない。しかし、この方法によると、従来の流体圧シリンダを少し加工するだけでおもりが取り付けられる。

第3図は、本発明のさらに他の実施例を示すもので、重りのかわりに、他のシリンダ10にアキユムレータ24を設けブランジャ11をブランジャ22に連結し、流体圧力により重りと同等の力を得ようとしたものである。これによりアキユム

レータ24の圧力の設定値を変えられるため、力を任意に設定できるようになる。

#### (発明の効果)

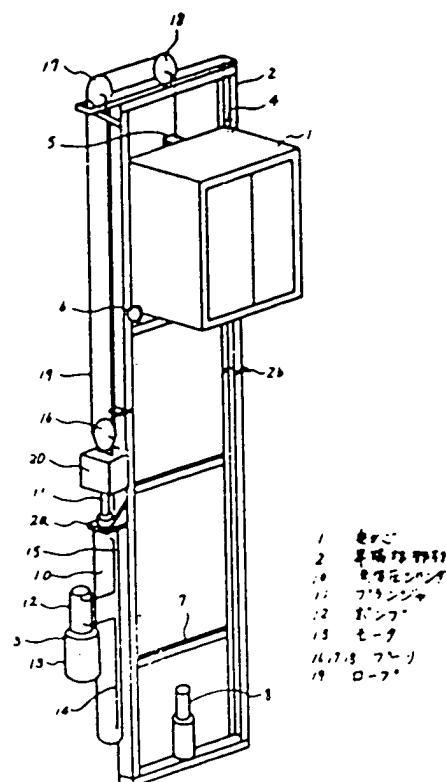
本発明によれば、流体圧シリンダのブランジャの縮小によつて上昇する流体圧エレベータに、重りか、それにかわる流体圧力による力をブランジャ部に設置することにより、従来の釣合い重りを装着するための部品やスペース、作業が不要となるので作業工数の低減と低コスト化が計れる。また、省スペースも可能で、システム全体が小型化され大幅にコスト低減となる。

#### 4. 図面の簡単な説明

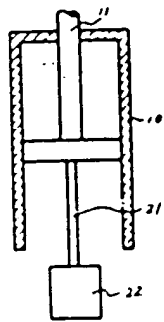
第1図は、本発明の一実施例の流体圧エレベータの全体構成を示し、ブランジャに重りを装着した例である。第2図、第3図は夫々本発明の他の実施例を示し、シリンダ部の断面図を示す。

1…乗かご、5、6、7、8、9…プーリ、10、23…流体圧シリンダ、11、22…ブランジャ、19…ロープ、20…おもり、21…ロッド。

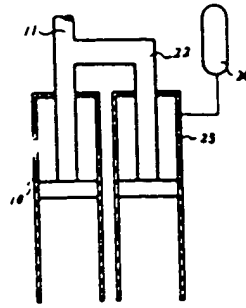
第1図



第 2 図



第 3 図



- 10 シリンダ
- 11 プランジヤ
- 21 ロッド
- 22 プランジヤ
- 23 スプリング
- 24 プランジヤ